0. 文字

当言語の文字は、**対清音字**、**対濁音字**、**中立音字**、**半母音字**、**母音字**の五種類に分けられる。
又、順序, 文字, 音価, 名称は以下の通りである。

Z z	X x	Ꞡ ꞡ	C c	Ƀ b	D ɗ	U ɹ	Ɔ ɔ	E ɛ	Ǝ ɜ
P p	B b	F f	V v	T t	D d	S s	Z z	X x	J j
p	b	f	v	t	d	s	z	ʃ	ʒ
paf	baf	fat	vat	tas	das	sax	zax	xak	jak
Ɋ q	D φ	ɗ d	N ɴ	M m	P r	˥ ˩	Θ θ	И n	Λ ʌ
K k	G g	M m	N n	C c	R r	L l	W w	Y y	I i
k	g	m	n	r	ɹ	l	β	j	i
kap	gap	maf	naf	cat	rat	las	was	yax	ix
V v	I ɪ	O o	W u	Y y					
E e	A a	O o	U u	H h					
e	a	o	u	h					
ek	ak	op	up	haf					

※指示詞・数詞・固有名詞以外に二重母音は含まれない。
※母音字以外を総称して子音字という。
※c, w, yは語尾には使われない。
※hは外来語の音写のみで使う。

1. 在詞

指示詞、代名詞、名詞を在詞と呼ぶ。

1-1. 指示詞

必ず、語頭は大文字の母音字、語末は"s","t","x","k"である。
以下に示すのは独立用法。係在用法は"a"を接尾。

	単数	複数
一人称	As	Aos / Aes
二人称	Es	Eos

三人称	有生						無生			
	人間				生物		物		事	
	単数		複数		単数	複数	単数	複数	単数	複数
男性	Oks	Ox	Okt	Oox	Is	Ios	Us	Uos	Ax	Aox
女性		Os		Oos						

1-2. 代名詞

必ず、語頭はL、語末は"p, f, x, k"のどれかで終わる。
以下に示すのは独立用法。係在用法は"a"を接尾。

	疑問	全体	部分	特定	選択	任意	零
有生	Lap	Lop	Lep	Lup	Lip	Lax	Lox
無生	Laf	Lof	Lef	Luf	Lif	Lak	Lok

1-3. 名詞

必ず対清音字で終わる。
但し、固有名詞は大文字で始め、接辞が付く場合は-で繋ぐ。

語末が対清音字・対濁音字でない場合は、-sを付け、接尾辞はこのsより後に付ける。

2. 述詞
動詞と状態詞を述詞と呼ぶ。
全て後置修飾する。又、被修飾語に近いものほど意味は強い。

2-1. 独立形(辞書形)
動詞の語末は対濁音字、状態詞の語末は"o"である。
述語や補語となる用法。主語の後ろに置く。
係在形・係述形は、これに語尾を付ける。

2-2. 係在形(状態詞のみ)
在詞を修飾する。独立形の語尾を"a"にした形。
代名詞や指示詞や固有名詞も非限定的に修飾できる。

2-3. 係述形(状態詞のみ)
いわゆる副詞。独立形の語尾を"e"にした形。述詞を修飾する。

3. 助動詞
法詞・態詞は動詞の前に、時制詞・相詞は動詞の後ろに置く。
又、法詞と態詞、時制詞と相詞はそれぞれスペーシングしない。
係在用法の動詞に係る場合、法詞・態詞と動詞をハイフンで繋いでもよい。

3-1. 法詞
発話者の心的態度を表す。語末は"n"。

直説法	(無標)
条件法	lin
命令法	nen
禁止法	min

3-1-1. 直説法
事実を述べる。意志などを含むものも、その意志を持っていることは事実なので直接法を使う。

3-1-2. 条件法
非現実下での動作を述べる。
仮定法(接続法)はないので、条件節は開放条件と却下条件の区別を持たない。

3-1-3. 命令法
命令する。

3-1-4. 禁止法
禁止の命令をする。

3-1-5. 命令法・禁止法と時制
命令法や禁止法は時制によって日本語での意味が変わる。

過去時制	過去の事実に対する後悔を表す。
現在時制	現在の事実に対する(叶わない)願望を表す。
通時制	一般的事実に対する(叶わない)願望を表す。
未来時制	一般的な命令や禁止を表す。

3-2. 態詞

動作を見る立場を表す。語末は"r"。

能動態	(無標)
受動態	der
中間態	nar

3-2-1. 能動態

動作主を主格、動作の受け手を対格に置く態。

3-2-2. 受動態

動作の受け手を主格、動作主を対格に置く態。
動作主が不明、自明である場合は省略することが多い。

3-2-3. 中間態

動作の受け手が存在しない(或いは動作主自身)である場合にとる態。
対格をとらない。
他動詞を自動詞化する。

3-3. 時制詞

動作の行われた時を表す。語頭はlで、語尾は母音。
現在時制詞は強調する場合以外省略される。
時制は絶対時制で、過去のことは必ず過去時制詞、未来のことは必ず未来時制詞を用いて表す。
但し、大過去や大未来は、基準となる過去や未来がある場合にのみ相対的に用いる。

大過去	anan
過去	an
現在	(en)
通時	un
未来	on
大未来	onon

3-4. 相詞

動作の段階や状況を表す。語末は"r"。

完成相	(無標)	動作の開始から終了まで。
将然相	sir	動作の開始直前。
開始相	per	動作の開始時。
進行相	tor	動作の進行中。
完了相	mar	動作の完了時。
継続相	xur	動作の完了した状態の継続中。
終了相	nur	動作の終了時。
反復相	ker	動作の開始から終了までを繰り返す。
習慣相	for	動作が習慣的に繰り返される。
断絶相	ler	時制詞とともに用いて、動作が発話時に影響を与えない。

4. 係詞

いわゆる前置詞。語末は"l"。
主格係詞と対格係詞は関係代名詞節内、倒置、強調の場合のみ用いる。
又、係詞の語頭にaをつけると、係在用法となる。
属格係詞・係格係詞について、従属語が母音で始まるときと、文末に置かれる場合はlをつけた形を使う。

SVOM以外の語順になる場合は主格係詞や対格係詞も省略できず、述語(述部)の直前にneを置く。

主格	(xal)	～が
属格	e / el	～の
対格	(fol)	～を
与格	sul	～に
処格	til	～で
奪格	tol	～から
変格	xol	～まで
係格	a / al	～の
様格	sal	～として

題格	kol	～について
欠格	dol	～なしで
時格	kal	～に
具格	nul	～を使って
受格	yul	～によって
共格	vel	～と共に
奉格	fel	～の為に
同格	nol	～である
量格	wel	～である

5. 接続詞
語末は"m"。従属接続詞(水色)の語尾の"m"を"l"にすると後ろに名詞をとれる。

	強	弱	略式
接続	lom	om	,
順接	zom	som	,,
逆接	vam	fam	
原因	bam	pam	
結果	gem	kem	
程度	dam	tam	
条件	zem	sem	
譲歩	jem	xem	
放置	bom	pom	
進行	gum	kum	
比喩	bem	pem	
比較	dem	tem	
同時	dum	tum	

連言	am	※略式:&
選言	um	※略式://
択言	em	※略式:/

※因果関係の強さによって使い分ける。
※接続の接続詞について、lomは順序、omは並列で使うことが多い。
※条件の接続詞について、zemは却下条件、semは開放条件で使うことが多い。
※節が長い場合は、節末にneをつけても良い。但し、文末ではふつう付けない。
※主文より前に節を置く場合はneを省略できない。

9. 節詞
関係代名詞と準詞を合わせて節詞と呼ぶ。

9-1. 関係代名詞
ta, tap, tafを関係代名詞という。
taとneで不完全文を挟み、関係代名詞節を導く。
tap/tafとneで不完全文を挟むと、先行詞を内包する関係詞節となる。
※ neは文末では省略される。
※ 関係副詞はPalamにはない。係詞を後続の節内に残すことで表す。
※ 関係代名詞節内では、係詞を省略することができない。
※ tapは先行詞が有生の場合、tafは無生の場合に使う。

9-2. 準詞
doを準詞という。
neは文末では通例、省略される。

9-2-1. doとneで完全文、又は状態詞独立形を挟み、準名詞を導く。
①完全文を挟んだ場合は「～すること」の意味。
②状態詞独立用法をとった場合は形容名詞句「～さ」「～性」の意味。

9-2-2. deとneで完全文を挟むと、意味の曖昧な従属節になる。
英語の分詞構文に近い。漠然とその動作が行われた時の様子などを示す。

10. 数詞
Palamでは十進法を用いる。
名詞にそのまま後置すると基数、語頭にaを付けて後置すると序数を表す。
名詞として用いる場合は語末にsを付ける。

0	xie	11	riupia	20	riufe	=10*2
1	pia	12	riufua	30	riute	=10*3
2	fua	13	riutea	40	riuse	=10*4
3	tea	14	riusoa	50	riuxe	=10*5
4	soa	15	riuxai	51	riuxepia	=10*5+1
5	xai	16	riukui	150	leu,riuxe	=100+10*5
6	kui	17	riumei	175	leu,riumexai	=100+10*7+5
7	mei	18	riunoi	200	leufe	=100*2
8	noi	19	riucau	2:150	poufe,leu,riuxa	=1000*2+100+10*5
9	cau			10:000	poure	=1000*10
10	riu			12:345	pou_pufua,leute,riusexai	
100	leu			23:456:789	poufo_futea,pou_suxukui,leume,riunecau	
1000	pou			0.36	xee-lot-tukui	
				3.14	tea-lot-pusoa	
				$\frac{1}{5}$	pia-atol-xai	

※赤字の数詞を"数基"という。
※数基以外の数詞を"複合数詞"という。

- 数基は必ず二重母音で終わる。この二重母音部分が変化する。
  乗法形：eになる →直前の数基の掛ける数になる。
  指数形：oになる →直前の数基の指数になる。但し、二桁以上では語頭に#を付けて表す。
  読上形：uになる →上から数を読み上げるときに使う。(読上げる最後の数詞だけは基数形を使う。)

① 複合数詞は、数字で書く場合、一の位から三桁毎に「:」(コロン)を入れる。
② 「数詞,数詞」は、加法を表す。但し、二桁の数の場合は「,」を省略する。
③ 「数詞_読上形数詞」は、乗法を表す。但し、数基乗法形が使える場合はそちらを使う。
④ 10:000を超える数では、千の位までは上記の表記をし、それより上位では、「:」で区切られた区画ごとに、「pou+指数形数基_読上形複合数詞(3桁)」の形を使って表し、それを連ねて表記する。
⑤ 小数点はlotで表し、その前後に「-」を置く。又、小数点以下の数は読上で表す。
⑥ 分数は、「-atol-」の前に分子、後ろに分母を置いて表す。
⑦ 複合数詞は全て読上で表しても良い。

11. 感動詞
語末は"u"。主なものは以下のとおり。

肯定	isu	おはよう	salyu
否定	axu	こんにちは	
ありがとう	saju	こんばんは	
さようなら	mazu	おやすみ	lassu

12. 補助詞
他の品詞では表せない微妙なニュアンスを付け足す。語末は"i"。

重要なものを上げておくと、否定の補助詞mi, 決定疑問の補助詞piなどがある。
miは動詞句の前、piは文頭または文末に置く。（文末に置くと確認の意味になる。）

13. 語順
基本的にはSVO, SVC, Pr, NA, GNである。
又、大文字を用いるのは、強調する場合以外では指示詞、代名詞、固有名詞の語頭のみとする。

14. 用語解説
係在用法　在詞を修飾する用法。指示詞、代名詞も、非限定的に修飾できる。
所有用法　所有代名詞にあたる用法。（「～のもの」と訳す。）
従属語　係詞の後に置かれる名詞。英語でいう"前置詞の目的語"。

15. 敬語
動詞の直後にesiを置くと尊敬語、asiを置くと丁寧語になる。(謙譲語はない。)
又、敬称については、名前に-esiを後置する。

16. 補足
① ハイフンで始まる接尾語は、ハイフンを付ける代わりに上付き文字でも表せる。
② 複文において、従属節内の文の要素とその一つ上位の節の文の要素と重複する場合は、従属節側の重複している文の要素を省略できる。
③ 重文において、二文で重複している文の要素を省略できる。